対協のHOTな情報をお届けします!

むーぶ



坂井市社協事務局だより 2018.10 (第88号)

発行: 坂井市社会福祉協議会



坂井市社協ボランティア・市民活動センターは、 地域のさまざまな福祉活動を応援しています!

社協は、「地域福祉の推進」を図るために、その活動の一環としてボランティア・市民活動支援 に1960年代から取り組んでいます。現在では、9割を超える市区町村社協にボランティア・市民活 動センター(社協VC)が設置されています。

今日の社協VCが目指すものは、「誰もがボランティア活動できる地域社会、すなわち誰も排除 しない共生文化を創造すること」を使命とし、地域の「支えあう関係」や「つながりの再構築」を基盤 に、多様な主体が協働して地域の生活課題を解決することです。

坂井市社協VCでは、運営委員会を設置し、地域で取り組まれている様々なボランティア・市 民活動の支援に取り組んでいます。



春江町総合型地域スポーツクラブ UNITIVE291







坂井市社協 V C運営委員 (7期)

加藤幸治 (施設代表)、小林靖幸 (市民活動実践者)、佐々本泰秀・竹内三知夫・増尾幹彦・西山式子 (支部ボラ代表)、伊藤進 (社協理事)、豊田幸代 (行政) 順不同・敬称略

【ふくしの動き】

ボランティア・市民活動の「広がり」と「深まり」

ボランティア・市民活動は、新たな課題や潜在的なニーズへの対応、マイノリティ(社会的少数派) の代弁や支援に率先して取り組み、問題解決を図りつつ、社会への課題提起を行うなど、先駆的・開 拓的な役割を果たしてきました。他者のための活動にとどまらず、自らの(地域)社会づくりにつな がる活動であること、活動者自身の自己実現の機会、学びであることについても広く認識されるよう になってきています。

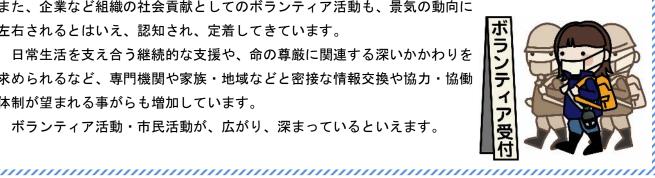
1995 年は、日本における「ボランティア元年」と呼ばれています。それは、阪神・淡路大震災の救 援活動を契機としてます。その後、市民活動を支援することを目的に、特定非営利活動促進法が制定 され、NPO法人が増加してきました。

今日、ボランティア活動は福祉分野のみならず、保健・医療、環境、教育、文化、国際など、人間 生活を支えるあらゆる分野で幅広く展開されています。活動者も性差を問わず幅広い年齢層に拡大 し、専門的技術・知識を有効活用する専門職にもボランティアとしての活動参加が広がっています。

また、企業など組織の社会貢献としてのボランティア活動も、景気の動向に 左右されるとはいえ、認知され、定着してきています。

日常生活を支え合う継続的な支援や、命の尊厳に関連する深いかかわりを 求められるなど、専門機関や家族・地域などと密接な情報交換や協力・協働 体制が望まれる事がらも増加しています。

ボランティア活動・市民活動が、広がり、深まっているといえます。



[社協の主な予定]

	,		,			_
月	火	水	木	金	土	日
10/22	23	24	25	26	27	28
地)全国生活支援コーデ・(ネーター研究会	総)内部監査 地坂)支部社協 地)全国生活支援フ オーラム 三老)スティックリング大	地春)春小福祉体験 春身)一泊研修	地)生活会議支援サ ポーター養成講座④ 地春)春西見守り ネットワーク設立総会 三老)理事会 地三)加戸小パリアフ リー教室	総)定例監査 地三)があれあい のいぼふとき 三心)高の部中 地丸)の会部 地丸)の会部地区 地東)を部地区福 神連絡会		市心)あおぞら教室市)災害ポランティアセンター設置訓練
29	30	31	11/1	2	3(祝)	4
	地)法人後見支援 検討委員会② 市老)理事会	地春)春西小福祉講 演	坂老)一泊研修	地春) 大石小福祉 体験		
5	6	7	8	9	10	11
法)社協三役会 老)女性部研修会 地春)北部地区ふ くしの会役員会	包)家族介護教室	地)生活支援員養成 講座① 地坂) 一人暮らし高 齢者交流会		市老)いきいき発表会	地丸)高椋中部ふれあいサロン	法)第13回市 社会福祉大会 市身)一泊研 修
12	13	14	15	16	17	18
		地)生活支援員養成 講座② 地春)一人暮らし高 齢者交流事業	地丸) いきいきサロンのつどい 地三) 支部社協	地)生活介護支援 サポーターステップアップ 講座		地三)パープルタ ウン黒目徘徊模 擬訓練

法)法人 地) 地域福祉課 総)総務課 老) 老人クラブ 身) 障がい者福祉協会 三丸春坂) 各支部

心) 心身障がい児(者) 福祉協会